

ALIC/USMEF 食肉需給情報交換会議の概要について

独立行政法人農畜産業振興機構

このたび、独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は、米国食肉輸出連合会（USMEF）と食肉需給情報交換会議を開催しました。

本会議は、日本、米国の食肉需給状況等について意見交換を行う場として両国において、原則として毎年度交互に開催しており、今回で通算27回目となります。

1 日時：平成24年6月19（火）午前10～午後2時

2 場所：米国コロラド州デンバー市USMEF本部

3 参加者

ALIC

佐藤理事長、清家総括理事、上田調査情報部調査役、柴崎（調査情報部）

USMEF

サッド・ライブリー	輸出サービス担当首席副会長
ダン・ハルストラム	マーケティング・コミュニケーション担当首席副会長
グレッグ・ヘインズ	マーケティング・コミュニケーション担当副会長補
原田 晋	シニア・ディレクター

4 会議内容

ライブリー首席副会長と佐藤理事の挨拶の後、USMEFから米国の食肉需給について、ALICから日本の食肉需給について説明し、意見交換を行った。

<USMEFからの食肉需給について説明概要>

牛肉

- ・米国の牛肉生産は2012年の後半も減少傾向が継続。通年では前年比4%減と推測。他方、世界の輸出は堅調であり、2012年は同7%程度増加する見込み。
- ・全米の牛群の動向については、テキサスの干ばつなどの影響を受けて減少傾向で推移。しかながら、最近では干ばつの状況は改善しつつあり、子牛価格が高値で推移していることもあって、牛群減少にブレーキがかかっている。今後、牛群再構築に向けた長期的なトレンドが始まるのか、1～2年の短期的な動きで終わるのかは、現段階では不明。

- ・米国内の牛肉価格は、供給が先細りするなか、ロインなどを中心に堅調な需要が見込まれるため、昨年並みの好調を維持。
- ・牛肉輸出については、日本および韓国向けが引き続き堅調であるほか、ロシア、エジプト向けも伸びる見込み。
- ・牛肉輸入については、搾乳牛のと畜数が減少傾向あるので、豪州やニュージーランドからのカウミート（老廃牛の肉）の輸入が増加する見込み。

豚肉

- ・2012年の豚肉生産については、世界全体で前年比3%増、中国で同4%増、米国で同3%増、韓国で同17%増、EUで同1%減と見込まれる。EUの減産は、飼料などのコストアップや動物福祉への対応などが要因。
- ・米国の豚肉増産が見込まれるなか、輸出も価格を押し上げるほどの力強さがないため、2012年の豚肉価格は高値であった昨年と比べれば弱含みで推移する見込み。
- ・2012年の豚肉輸出は昨年と比べやや減少する見込み。これは、中国および韓国における豚肉増産に加えて、ユーロ安によりEU産豚肉の価格競争力が増すことなどが要因。

トウモロコシ

- ・2012/13年度産トウモロコシ（9月～翌8月）は増産が見込まれており、期末在庫量も851百万ブッシェル（2012年8月末）から1881百万ブッシェル（2013年8月末）へと大幅に増加する見込み。トウモロコシの相場も需給緩和の兆候をくみ取り、やや弱含んで推移。
- ・ただし、今後2か月間の天候が単収に与える影響は大きく、最近ではコーンベルト地域などにおいて干ばつの懸念が出ており予断を許さない状況。

<ALICからの食肉需給について説明概要>

- ・日本の直近の牛肉および豚肉の消費動向、今後の生産予測等について説明。

お問い合わせ先 調査情報部 上田 電話 03-3583-4396
--